国連ボランティア 世界に活躍の場

日本人55人、数でも健闘

四月八日にカンボジアで射殺された中田厚仁さんの痛ましい事件でクローズアップされた国連ボランティア。辞退者が出るなど波紋は広がっているが、一体どのような活動をしているのだろうか。

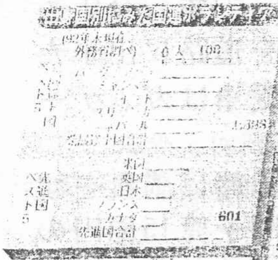
国連ボランティアは国連の組織のひとつである技術協力機構、国連開発計画（UNDP）の下部組織として一九七一年に設立された国連ボランティア計画（UNV、本部はジュネーブ）の管轄下にある。UNVが世界各国に呼び掛けて人を募り、一定基準の審査を通り登録された人が国連ボランティアとして世界の活動地域に散る。財源は主に国連加盟国の拠出金で賄われている。

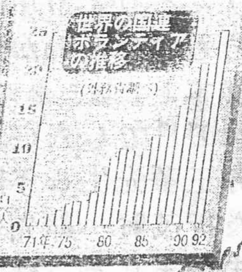
農林、医療などの技術支援に加え、最近は難民の世話など人道的支援が増えてきた。カンボジアでは総選挙準備に関係する仕事に日本から多くのボランティアが参加している。

外務省の調べによると、九二年末段階で、二千四百八十九人が国連ボランティアとして活動中で、そのうち日本人は五十五人。先進国の中では米国、英国に続き三番目に多い。

ボランティアは自己の金銭的利益を追求しないのが原則である。しかし、待遇は先進諸国の生活水準と比較すると低めだ。このせいか、先進国の志願者が少ないのが現状である。

日本人にとっては、語学力や、会社員の場合は長期休暇が取れないという事情が厚い壁となっているようだ。

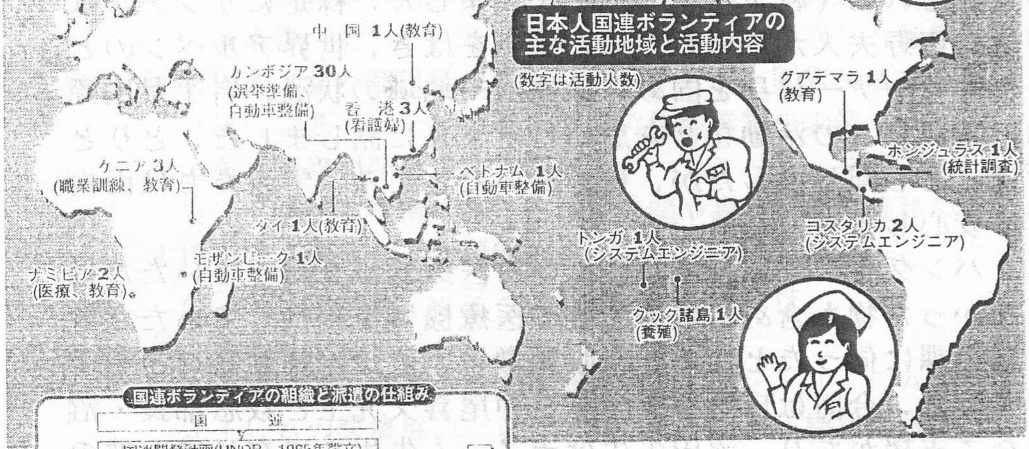




身分と待遇

※カンボジアのケース(期間は1年)

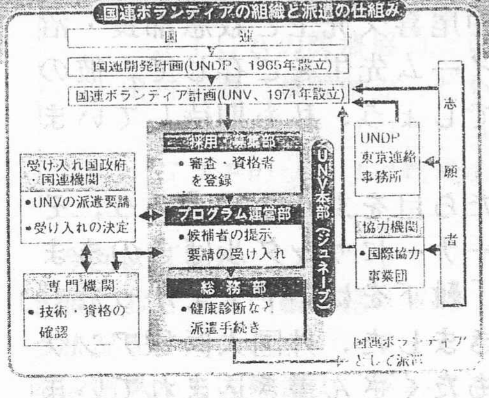
- 国連との契約ボランティア
- 赴任手当て　12カ月**1,458**米ドル
- 現地生活費　(1人1カ月**729**米ドル
  家族1カ月**966**米ドル)
- 帰国用手当て　1カ月**100**米ドル
- 病気・傷害保険　**5**万米ドル
- 死亡保険　**10**万米ドル



日本人国連ボランティアの主な活動地域と活動内容

(数字は活動人数)

中国 1人(教育)
カンボジア 30人
(選挙準備、
自動車整備)
香港 3人
(看護婦)
ケニア 3人
(職業訓練、教育)
ベトナム 1人
(自動車整備)
タイ 1人(教育)
モザンビーク 1人
(自動車整備)
ナミビア 2人
(医療、教育)
グアテマラ 1人
(教育)
ホンジュラス 1人
(統計調査)
コスタリカ 2人
(システムエンジニア)
トンガ 1人
(システムエンジニア)
クック諸島 1人
(養殖)



国連ボランティアの組織と派遣の仕組み

国連
国連開発計画(UNDP、1965年設立)
国連ボランティア計画(UNV、1971年設立)
UNV本部(ジュネーブ)
採用・募集部
・審査・資格者を登録
プログラム運営部
・候補者の提示
要請の受け入れ
総務部
・健康診断など
派遣手続き
受け入れ国政府・国連機関
・UNVの派遣要請
・受け入れの決定
専門機関
・技術・資格の確認
UNDP東京連絡事務所
協力機関
・国際協力事業団
志願者
国連ボランティアとして派遣